□ 高度の排便機能障害			
(1) 原 因			
□ 先天性鎖肛に対する肛門形成術 □ その他 手術日: [年 月 日] □ 小腸肛門吻合術 手術日: [年 月 日]			
3. 障害程度の等級			
(1級に該当する障害)			
□ 腸管のストマに尿路変向(更)のストマを併せもち、かつ、いずれかのストマにおいて 排便・排尿処理が著しく困難な状態があるもの			
 □ 腸管のストマをもち、かつ、ストマにおける排便処理が著しく困難な状態及び高度の排尿機能障害があるもの □ 尿路変向(更)のストマに治癒困難な腸瘻を併せもち、かつ、ストマにおける排尿処理が著しく困難な状態又は腸瘻における腸内容の排泄処理が著しく困難な状態があるもの 			
□ 尿路変向(更)のストマをもち、かつ、ストマにおける排尿処理が著しく困難な状態及び高度の排便機能障害があるもの □ 治癒困難な腸瘻があり、かつ、腸瘻における腸内容の排泄処理が著しく困難な状態及び			
高度の排尿機能障害があるもの (3級に該当する障害)			
□ 腸管のストマに尿路変向(更)のストマを併せもつもの □ 腸管のストマをもち、かつ、ストマにおける排便処理が著しく困難な状態又は高度の排尿機能障害があるもの □ 尿路変向(更)のストマに治癒困難な腸瘻を併せもつもの □ 尿路変向(更)のストマをもち、かつ、ストマにおける排尿処理が著しく困難な状態又は高度の排便機能障害があるもの □ 治癒困難な腸瘻があり、かつ、腸瘻における腸内容の排泄処理が著しく困難な状態又は高度の排尿機能障害があるもの □ 高度の排尿機能障害があるもの □ 高度の排尿機能障害があり、かつ、高度の排便機能障害があるもの (4級に該当する障害) □ 腸管又は尿路変向(更)のストマをもつもの □ 治癒困難な腸瘻があるもの □ 高度の排尿機能障害又は高度な排便機能障害があるもの			

良休陪室老診野妻・辛日妻 (ぼるこるワけ声唱機能陪室用)

为 (P) (P) (百百 (D) (D) (T) (D) (D) (D) (D) (D) (D) (D) (D) (D) (D	兄者(はりこり又は旦腸機能陣舌用)		
松 拍 衣			
氏 名	明治 昭和 大正 介 年 月 日生()歳 男 女		
	令和		
住所	I		
IE //I			
① 障害名 (部位を明記)			
原因となった② ・ ・ の を は ・ の に の に の に の に の に の に の に の に の に の	交通事故、労災、その他の事故、戦傷、戦災、		
疾病・外傷名	自然災害、疾病、先天性、その他()		
③ 疾病・外傷発生年月日 年	月日・場所		
④ 参考となる経過・現症(エックス線写真及び検査所見を含む。)			
	障害固定又は障害確定(推定) 年 月 日		
⑤ 総合所見			
	(将来再認定 要・ 不要		
	再認定の理由:軽減化・成長期・その他		
	再認定の時期:令和 年 月		
⑥ その他参考となる合併症状			
上記のとおり診断する。併せて以下の)意見を付す。		
年 月 日			
病院又は診療所の名称			
所 在 地 診療担当科名	科 医師氏名 即		
	日 [障害程度等級についても参考意見を記入]		
障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に			
該当する (級相当)		
・ 該当しない			
	えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入 天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してく		

- 2 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、「歯科医師による診断書・意見書」(別様式)を添付してください。 3 障害区分や等級決定のため、地方社会福祉審議会から改めて次頁以降の部分についてお問い合わせする場合があります。

ぼうこう又は直腸の機能障害の状態及び所見

〔記入上の注意〕

・「ぼうこう機能障害」、「直腸機能障害」については、該当する障害についてのみ記載し、両方 の障害を併せもつ場合には、それぞれについて記載すること。

・障害認定の対象となるストマについては、排尿・排便のための機能をもち、永久的に造設されるものに限る。 1. ぼうこう機能障害 □ 保路変向(更)のストマ (1) 種類・術式	・1~3の各障害及び障害程度の等級の欄におい を記述すること。	いては、該当する項目の□に√を入れ、必要事項			
1. ぼうこう機能障害 □ 尿路変向(更)のストマ (1) 種類・術式	・障害認定の対象となるストマについては、排尿	排便のための機能をもち、永久的に造設さ			
□ 尿路変向(更)のストマ (1) 種類・術式	れるものに限る。				
(1) 種類・術式	1. ぼうこう機能障害				
● 長期にわたるストマ用装具の装着が 困難な状態の有無について	□ 尿路変向(更)のストマ				
 ● 腎瘻 □ 腎盂瘻 □ 尿管瘻 □ ぼうこう瘻 □ 同腸(結腸)導管 □ その他 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	(1)種類・術式	(2) ストマにおける排尿処理の状態			
① 種類 □ 尿管瘻 □ ぼうこう瘻 □ □腸(結腸)導管 □ その他 □ □ 軽快の見込みのないストマ周辺の 皮膚の著しいびらんがある (部位、大きさについて図示) □ ストマの変形 □ ストマの変形 □ 不適切な造設箇所 □ 無 (2) 排尿機能障害 (1) 原因 □ 特経障害 □ カテーテルの常時留置 □ 先天性: □ □ 自己導尿の常時施行 □ 直腸の手術 ・術 式: □ □ 完全尿失禁 ・手術日: □ 年 月 □ □		○ 長期にわたるストマ用装具の装着が			
① 種類 □ 回腸(結腸)導管 □ 有 ② 術 式: [□ 軽快の見込みのないストマ周辺の皮膚の著しいびらんがある(部位、大きさについて図示) □ ストマの変形 □ ストマの変形 □ 不適切な造設箇所 □ 高度の排尿機能障害 (1)原因 (2)排尿機能障害の状態及び対応 □ 神経障害 □ カテーテルの常時留置 □ 先天性: [□ 自己導尿の常時施行 □ 直腸の手術・術式: [完全尿失禁・手術日: [・手術日: [年月日]	□ 腎瘻 □ 腎盂瘻	困難な状態の有無について			
□ 回腸(結腸)導管 □ その他 [□ 尿管瘻 □ ぼうこう瘻				
② 術 式: [年 月 日] ③ 手術日: [年 月 日] 本 月 日] 皮膚の著しいびらんがある (部位、大きさについて図示) ストマの変形 コーストマの変形 コーストマの常時留置 コーストマの常時留置 コーストマの常時留置 コーストマの変形 コーストマの変形 コーストマの変形 コーストマの変形 コーストマの常時留置 コーストマルの常時留置 コーストマルの常時を行 コーストマルの常味の表示を表示している。 第14年 1月 コーストマルの常体によるようによるようによるようによるようによるようによるようによるようによるよ		□ 有			
(3) 手術日: 年月日日 皮膚の著しいびらんがある(部位、大きさについて図示) ストマの変形 ストマの変形 「無 (ストマ及びびらんの部位等を図示) (1) 原因 (2) 排尿機能障害の状態及び対応 中経障害 カテーテルの常時留置 (例: 二分脊椎等) 自己導尿の常時施行 直腸の手術・術式: 完全尿失禁・手術日: ・手術日: 年月日日	□ その他 []	(理由)			
③ 手術日: 年 月 日] 皮膚の著しいびらんがある(部位、大きさについて図示) ストマの変形 ストマの変形 「 不適切な造設箇所 「 無 (2) 排尿機能障害の状態及び対応 「 神経障害 カテーテルの常時留置 「 先天性: 自己導尿の常時施行 「 直腸の手術 ・術 式: 完全尿失禁 ・手術日: 年 月 日	② 術 式:[□ 軽快の見込みのないストマ周辺の			
大きさについて図示) ストマの変形 不適切な造設箇所 無		皮膚の著しいびらんがある(部位、			
□ 不適切な造設箇所 □ 無 (ストマ及びびらんの部位等を図示) □ 高度の排尿機能障害 (1) 原因 □ 神経障害 □ カテーテルの常時留置 □ 先天性: [□ □ 自己導尿の常時施行 □ 直腸の手術 ・術 式: [□ □ 完全尿失禁 ・手術日: [年 月 日]		大きさについて図示)			
(ストマ及びびらんの部位等を図示) □ 高度の排尿機能障害 (1)原因 (2)排尿機能障害の状態及び対応 □ 神経障害 □ カテーテルの常時留置 (例: 二分脊椎 等) □ 自己導尿の常時施行 □ 直腸の手術 ・術 式: [□ □ □ □ 完全尿失禁 ・手術日: [年 月 日]	/ * \	□ ストマの変形			
(ストマ及びびらんの部位等を図示) □ 高度の排尿機能障害 (1) 原因 (2) 排尿機能障害の状態及び対応 □ 神経障害 □ カテーテルの常時留置 (例: 二分脊椎 等) □ 自己導尿の常時施行 □ 直腸の手術 ・術 式: [□ □ □ □ 完全尿失禁 ・手術日: [年 月 日]		□ 不適切な造設箇所			
□ 高度の排尿機能障害 (2)排尿機能障害の状態及び対応 □ 神経障害 □ カテーテルの常時留置 □ 先天性: [
(1)原因 (2)排尿機能障害の状態及び対応 神経障害 カテーテルの常時留置 (例:二分脊椎等) 自己導尿の常時施行 直腸の手術・術式: 完全尿失禁・手術日: ・手術日: 年月日]	(ストマ及びびらんの部位等を図示)				
(1)原因 (2)排尿機能障害の状態及び対応 神経障害 カテーテルの常時留置 (例:二分脊椎等) 自己導尿の常時施行 直腸の手術・術式: 完全尿失禁・手術日: ・手術日: 年月日]	 □ 高度の排尿機能障害				
 □ 先天性: [] (例: 二分脊椎 等) □ 自己導尿の常時施行 □ 直腸の手術 ・術 式: [] □ 完全尿失禁 ・手術日: [年 月 日] 	(1)原因	(2) 排尿機能障害の状態及び対応			
(例:二分脊椎 等) □ 自己導尿の常時施行 □ 直腸の手術 ・術 式: [□ □ 完全尿失禁 ・手術日: [年 月 日]	□ 神経障害	□ カテーテルの常時留置			
□ 直腸の手術 ・術 式: [□ □ 完全尿失禁 ・手術日: [年 月 日]	(□ 先天性:[]				
・術 式: [□ □ 完全尿失禁 ・手術日: [年 月 日]	(例:二分脊椎 等)	□ 自己導尿の常時施行			
・手術日: <u>年月日</u>	□ 直腸の手術				
	·術 式:[]	□ 完全尿失禁			
	・手術日: <u>年 月 日</u>				
□ 自然排尿型代用ぼうこう □ その他	□ 自然排尿型代用ぼうこう	□ その他			
·術 式:[]	・術 式:「 l				
· 手術日: <u>年月日</u>					

2. 直腸機能障害			
□ 腸管のストマ			
(1) 種類・術式		(2) ストマにおける排便処理の状態	
		○ 長期にわたるストマ用装具の装着が	
(□ 空腸・回腸	ストマ	困難な状態の有無について	
 □ 上行・横行	結腸ストマ		
① 種類	結腸ストマ	□ 有	
□ その他[1	(理由)	
		(□ 軽快の見込みのないストマ周辺	
② 術 式:[の皮膚の著しいびらんがある	
③ 手術日: 年	月 日]		
/	\	(部位、大きさについて図示)	
/ *		□ ストマの変形	
[}	□ 不適切な造設箇所	
	}		
\	·]	無	
(ストマ及びびらんの部	立等を図示)		
□ 治癒困難な腸瘻			
(1) 原因		(3) 腸瘻からの腸内容の洩れの状態	
① 放射線障害		□ 大部分	
]		
		□ 一部分	
② その他			
疾患名:[1	(4) 腸瘻における腸内容の排泄処理の状態	
	<u></u>	(五) MOMENTAL STORT TO STORE COMMEN	
(2)瘻孔の数:[個	□ 軽快の見込みのない腸瘻周辺の皮膚	
. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	2	の著しいびらんがある(部位、大き	
)	1	さについて図示)	
/ *		CIC 2V CEATY	
1	\	□ その他	
1 ~ ~	}		
	.		
l	1		
(腸瘻及びびらんの部位等を図示)			